

五日会

林 義雄
林 政男

個人
質問
林 政男

◆学校選択制度の導入

問 就学区域の見直しを図る考えはないか。

教育長 近年、少子・高齢化、国際化、情報化など、社会の大きな変化により、公立小中学校の通学区域の弾力的な運用が取り上げられています。八街市は近年、児童生徒数は減少傾向に転じており、施設のな面での条件では受け入れることが可能な学校も出てきていることは確かです。しかし、近隣市町村の動向等を十分に踏まえながら検討したい。

問 地域の特徴を生かした公立学校にすべきと考えるが如何か。

教育長 学校長のサポートである学校評議員制度を効果的に活用して、保護者や地域住民の意向を学校運営に反映し、特色ある学校づくりを推進しています。今後も連携教育の成果をさらに発展させ、地域の特徴

とよさをとらえながら、家庭・地域との連携を基盤に進めたい。

◆八街駅北口区画整理事業

問 指導要綱を作成して街づくりの調和を図っているか。

市長 これから都市基盤に整合した魅力ある都市空間を創出するため、昨年、地区計画を決定し、建築物の用途、敷地規模、壁面の位置及び高さの最高限度を定めました。指導要綱は特に定めていませんが、今後、関係地権者等と官民協働により色、基本デザイン及びその手法などについて建築計画に反映できるよう調整したい。

問 北口の賑わいをどのように図るか。

市長 現在、TMOや地元商店街から企業等の立地までの間、空地を有効利用し、朝市など開催し、まちの活性化につなげたいという要望もあり、市としてTMO等の活動に対し、可能なことはできる限り協力し、市民の利便性の向上や商業の活性化を図りたい。

◆高速道路 (IC)

問 平成12年12月定例会で山田インター関連の質問をしました

が、「八街南」の看板設置を望むが如何か。

市長 市原管理事務所に照会したところ、山田インター完成当時の周辺地域の人口、自動車の流れ、観光性等を基準に案内板の名称を決定したとのことです。

八街市は人口も7万7千人を超え、地域の中核的な都市に成長しており、千葉・東金道路は県外からの利用者が多く、路線上に八街の文字が入った案内板が存在することは本市のイメージ及び知名度の向上につながり、さらには地理的に不慣れな方の利便性の向上につながりますので、改めて案内板の設置を道路管理者へ要請します。

問 酒々井インターの八街進入路が写真真からなくなつたと聞いているが真意の程は。

市長 県によると当面はイ



▲東関東自動車道酒々井P.A付近

ンターチェンジ北側の国道296号線につながるのみの計画ということで、県道富里酒々井線への接続は計画していないとのことです。

県に対し「地域活性化インターチェンジ制度」を適用している趣旨を踏まえ、インターチェンジの機能を最大限に生かすため、周辺自治体及び地域住民から十分に意見を聴取し、その意見を生かした利便性の高いインターチェンジとされるよう要望しました。

今後東関東自動車道酒々井インターチェンジ設置促進期成同盟をはじめ、周辺自治体と連携を図りながら県に対し、周辺地域の活性化に最大限に寄与するインターチェンジとして整備されるよう要望します。

公明党

鯨井眞佐子
京増 良男
新宅 雅子
川上 雄次

個人
質問
新宅 雅子

◆子育て支援

問 「次世代育成支援行動計画」について、本市の取り組みは如何か。

市長 次世代育成支援行動計画は、すべての子育て家庭を対象として、本市の子育て支援のまちづくりの将来像とその実現に必要な方策を明らかにし、子育てに関する確かな情報提供や育児不安を抱える親が気軽に相談できる場づくり等の充実、また、親自身の学びや育ちにつながるまちづくりを進めたいと考えています。

◆母子保健の充実

問 乳幼児健診の受診状況は如何か。

市長 市では、4カ月児と10カ月児の乳児相談と1歳6カ月児と3歳児の健康診査を行っています。乳児相談は、身体計測、観察を

行い、異常の早期発見に努め、児が健全に育つように保育や栄養等について助言・指導を行うことを目的に実施しています。

問 健診を受けない家庭にどう対処しているのか。

市長 健診を受けない家庭には、電話で受診勧奨をしています。電話で受診勧奨をしても健診を受けない家庭や、電話で連絡の取れない家庭には家庭訪問をして状況の把握をしています。乳幼児健診は、疾患や障害の発見だけでなく、親子関係、親子の心の状態の観察ができ、育児の交流の場として話を聞いてもらえる安心の場として取り組みたいと考えています。

◆総合窓口

問 「便利」「早い」「わかりやすい」サービスを市民に提供するため総合窓口の設置を望むが如何か。

市長 各種証明書の申請・交付や異動に伴う手続など窓口を可能な限り一本化して、市民に便利でわかりやすい窓口にしていくことは市民サービスの向上のため、検討していかなければならない課題と認識しています。